No.とプログラム名	No.６　知ると力になるがん教室
企業・団体名	済生会横浜市東部病院
実施日	８月４日（火曜日）
会場	【鶴見区】済生会横浜市東部病院　多目的ホール
対象学年と参加人数	小学３～６年生、参加児童数 24 人
参加の目的 （150 文字程度）	がんについて正しく知ってもらうとともに、病院には医師や看護師、薬剤師、管理栄養士、公認心理師、事務など、さまざまな職種が働いており、それぞれが連携・協力することで、一人ひとりの患者さんに適した医療を提供していることを知ってもらう機会として参加しました。また、実際に医療の仕事を体験することで、医療への興味・関心を深めてもらうことを目的として実施しました。

●当日のプログラム内容

①オープニング（５分）

本日の流れとお約束事項の確認

②講話（20 分）

「がんとは、がんの治療について」

講師：井上絵未 CLS（チャイルド・ライフ・スペシャリスト）

③がん治療体験（45 分）　グループごとに行動

・化学療法（金魚すくいのポイに書いたがん細胞を水鉄砲でやっつけよう）
・化学療法（ぬいぐるみに点滴をしてみよう）
・手術（たくさんのビーズの中から黒いビーズのがん細胞を取り除こう）
・聴診器で身体の音を聞いてみよう（どこの部位のどんな音かワークシートに記入）
・とろみ剤を使って試飲してみよう

④学びのまとめ（20 分）

・新聞風のワークシートを使用（個人ワーク）
・発表（挙手制）

●児童の様子や感想

・「がん」という病気について聞いたことはあるものの、「２人に１人ががんになる可能性がある」という説明に驚く児童が多く見られた。
・白衣を着用したり、実際の医療機器に触れたりする体験に大きな興味を示し、「楽しかった」「うれしかった」といった感想が多く聞かれた。
・聴診器を使用して自分の心音や呼吸音を聞く体験では、「音がうまく聞こえない」と感じる児童もおり、医療機器を正しく使用するためには工夫や技術が必要であることを学ぶ機会となった。
・とろみ剤を使用した体験では、管理栄養士によるがん患者への栄養支援についての説明に加え、食事形態や飲み込みやすさの工夫など、児童自身が体験を通して理解を深める様子が見られた。

・グループ活動を通して他学年の児童とも積極的に交流し、それぞれの気づきや意見、感想を共有しながら学びを深めることができていた。

●企業・団体の気づきや感想
・子どもたちは各体験ブースに意欲的に参加し、楽しみながら医療や健康について学ぶ様子が見られた。
・がん治療や栄養管理、医療機器に関する説明や体験を通して、運営スタッフにとっても知識や理解を深める貴重な学びの機会となった。
・プログラム終了まで児童の集中力が比較的維持されており、最後まで興味・関心を持って参加する姿が見られたことから、充実した内容で実施することができた。

●プログラムの様子





